

聞き取り調査の結果概要について

平成29年3月27日那須雪崩事故検証委員会（以下「検証委員会」という。）では、下記のとおり関係者からの聞き取り調査を実施いたしました但其の概要は次のとおりです。

- 1 実施日 : 平成29年7月29日（土）
- 2 場所 : 栃木県立大田原高等学校
- 3 出席者 : 検証委員会 5名（委員長、副委員長、委員3名）
関係者 9名（大田原高校関係者、春山安全登山講習会参加者）
- 4 目的 : 第一次報告において、基本調査、現地調査及び聞き取り調査により把握した事項のうち、当日の行動範囲や雪崩発生時の状況等について、より詳細に把握するため。
- 5 内容

- ① 大田原高校関係者

事故当日の県教育委員会、県高体連本部、保護者との連絡体制や、教職員間での役割分担について確認した。

また、本件事故における対応の課題や反省点を踏まえ、再発防止のためどういった所に留意したらよいか意見を求めた。

その結果、生徒の携帯番号については、個人情報であることから一覧にしていなかったが、取扱いに注意した上で事前に収集しておくべきであったこと、事故当日は全国から様々な電話が殺到し、また長時間にわたる通話で回線が塞がってしまうなど、必要な電話が繋がらない状況であったため、緊急時には、電話回線の一つを御家族や関係機関等との専用回線として確保するような対応が必要等の意見が得られた。

- ② 春山安全登山講習会参加者（生徒）

第1班について、事故当日、講師から行動範囲に関して、どのような指示を受けたか、また、樹林帯を抜けた後のルートを決めるに当たり、班の中でどのような話しがあり、どこを目指すことにしたのか等について聞き取りをした。

その結果、講師からは、スキー場を登って横の林に入り、行ける所まで行って戻るといふ趣旨の説明にとどまり、最終的にどこまで進むのか具体的な説明はなかったこと、樹林帯を抜けた後、風が強くなってきたことから、生徒たちはその風を避けるために岩を目指したいと講師に申し出たこと、目標とした「岩」について、その先に斜面が見えた等の供述が得られた。

また、雪崩発生時の状況や訓練時における雪崩の危険性に関する認識について聞き取りをしたところ、雪崩の発生時、2時の方向から、横一直線にクラックが入る

のが見え、斜面全体が流れたように感じたこと、実際に雪崩に遭遇するまで、全く危険性を認識していなかった等の供述が得られた。

③ 春山安全登山講習会参加者（教員）

聞き取り対象者は、講習期間中、気象情報をどのように入手していたか、雪崩注意報についてどのように認識していたかについて聞き取りをしたところ、気象情報については、1日目の夜はテレビで確認していたものの、2日目以降はスマートフォンのバッテリーが切れた等の理由で確認していなかったこと、雪崩注意報については、春先は発表される日が多いため、現場で判断する必要があると考えていたとの供述が得られた。

次に、計画変更後の歩行訓練について、講師は行動範囲をどのように認識していたか聞き取りをしたところ、委員長、前委員長、主任講師の3名が計画変更の協議を行った際は、各人が認識する行動範囲に差異が見られたが、最終的に講師を集めた全体説明の中では、行動範囲として、スキー場と樹林帯を指差しながら説明したため、講師間の共通認識は図られていたと考えていたとの供述が得られた。

また、第1班が樹林帯を抜け、先まで進んだ理由や雪崩の危険性についてどのように認識していたかについて聞き取りをしたところ、当初は、樹林帯の先くらいまでと考えていたが、生徒からの申し出に対し強く止められず、斜面の角度や雪の状況から大丈夫だろう判断し進んでしまったこと、滑落の危険性は心配していたが、雪崩の危険性については認識していなかったとの供述が得られた。

6 今後の対応

今回の聞き取り調査により得られた供述（雪崩の発生状況や目標物 など）について、最終報告に反映させるため、引き続き精査していく。